

早送りで見える未来

仮想ソーシャルスペース

🕒 所要時間 2分

PODCAST

00:00

00:00

🔊 Listen to: 早送りで見える未来

Listen to more Podcasts

おそらく、完璧ではないがこの想定シナリオは容易に理解できるだろう。何年もの間会っていない地球の反対側に住んでいる友人とビデオ通話するとしよう。彼の顔は疲れ気味でカメラの角度も微妙だ。しかし、少なくとも顔が見れて話せるだけでも幸せかもしれない。数十年前、こんな贅沢なツールは存在していなかったからだ。しかしながら、遠隔コミュニケーションはテクノロジーを介することで大きく変わった。今日のつながる「薄いメディア」（携帯やPCを使わずにスマートウォッチのようなデバイス上に通知されるコンテンツなど）は、人同士をより近づけるテクノロジーかもしれないが、それも完全ではない。

オランダのロッテルダム、中国の上海、インドのムンバイにいる同僚と拡張現実（AR）のホワイトボードを使って、まるで同じ部屋にでもいるように協働し、部屋の中を歩き回ったり話をしたりできるのだ。

しかし、最新のテクノロジーは、人間同士の相互交流を再構築し、非常に没入感のある視覚的体験を通じて人間同士の信頼を築こうとしている。オランダのロッテルダム、中国の上海、インドのムンバイにいる同僚と拡張現実（AR）のホワイトボードを使って、まるで同じ部屋にでもいるように協働し、部屋の中を歩き回ったり話をしたりできるのだ。遠隔に分散したグローバルチームは、メンバー同士が公平に参加できる環境の中で話すことができない（例えば、2次元画面、周囲の雑音、外部の邪魔など）という理由で会議が減るという問題を抱えている。しかし、考えなければならぬのはその文化的多様性が戦略的な意思決定を促し、職場の文化をより豊かにしていくということだ。

テレプレゼンスでは人間はカメラとキーボードに縛られる。それはまるで車の中でハンドルの後ろに座らせられるのに似ている。しかし、これからは違う。座るから立つ、動くまで様々な姿勢が取れば人間の身体は桁違いに解放されていく。同僚と公園を散歩したり、ゲームをする夜を想像してみしてほしい。

存在の不一致はもうなくなるだろう。そう、これが未来のスペースだ。

01 垣間見える未来

.....
ギグ・エコノミーでの活性剤

.....
莫大な量のデータを操る

.....
インテリジェント・イノベーション・ネットワーク

.....
健康的かつ持続可能なスペース

.....
部屋自体がチームのメンバー

私たちを理解する「スペース」とは
仮想ソーシャルスペース
